

ふと気づいた  
よく考えてみると「学会」ってどういうことかわからない

専門で集まって発表し合っって議論するのはわかるけど、  
本当に実のある議論できてるのかな。  
なんか単なる院生のデビュー戦会場みたいになってない？

昨今の過度な細分化の影響で、どうも学会が掲げるテーマが細かすぎない？  
議論がうちうちに留まっても全然いいことないよ  
っていうか、関連学会に全部参加してたら研究する暇ないわ

それに学会開催側になったら一大事！  
会場手配にバイトの手配、要項作りにその審査！  
ただでさえ研究時間が減っているのにほんとに勘弁して欲しい…

なにより学会員の維持に苦勞している学会のなんと多いことか！  
会費のクレジットカード払い、会員特典、年会費の値上げOR値下げ…  
涙ぐましい努力のわりには貧乏学会はいつも瀕死状態じゃないか！

別にいまさら「〇〇学会会長」の肩書きが効力あるとおもえないが、  
学会ってそんなに労力かけてまで守らなきゃいけないものなの？

研究者同士のつながり促進なら学会じゃなくてもいいはず  
研究者同士の熱い議論をならもっといいやり方があるはず  
学会に行かないと得られない情報だっってどんどん少なくなっている  
論文やピアレビューの制度劣化も認めざるをえない  
それに70%以上の論文が再現実験不可能って、これ学問っていえる？

学会の形式や存在意義、あわせて学術のあり方について、  
具体的なことからメタなことまで、分野を越えて話ませんか。

**参加対象：主たる11分野\*から研究者最大10名づつ**

**とにかく「京大国際センター」で検索！**

企業や行政等、研究者以外の方のために観客席も用意（100名程度）

その形式とついでに学術のあり方も問う

# 「学会」って意味なくない？

全分野結集型シンポジウム

2018. 9. 13  
13:00-16:00  
@京大吉田C

## 370の特長

京大国際センター名物「全分野結集型」のシンポジウム

ディスカッサントだけでなくTwitterのようなソフトで会場と対話する形式

予定調和ナシの完全なる対話ライブ型。WEB生配信&記録映像としてアーカイブ化

## プログラム案

13:00 挨拶&企画趣旨説明（学際融合教育研究推進センター宮野公樹、以下の司会も）  
13:10 「いわゆる文科系+いわゆる社会系」の巻

「あなたの分野の学会って、どんな形式？」  
「いいところ、わるいところは？」

「あなたの分野の研究って、どう進展していくの？」を一人3分で紹介し、その後、議論へ



文学  
久木田水生  
(名古屋大学)



社会学  
桑島修一郎  
(京都大学)



教育学  
田口真奈  
(京都大学)



経済学  
佐々木周作  
(京都大学)



法学  
松中学  
(名古屋大学)

14:00 休憩

14:10 「いわゆる理科系」の巻

上と同様の質問+いわゆる文系の議論を聞いての感想



農学  
宇高寛子  
(京都大学)



理学  
磯部洋明  
(京都市立芸大)



薬学  
井出和希  
(京都大学)



医学  
新福洋子  
(京都大学)



生命科学  
駒井章治  
(奈良先端大)



工学  
富田直秀  
(京都大学)

15:00 休憩

15:10 パネリスト全員11分野がごちゃまぜで本音トーク  
論点整理し再度ディスカッション

16:00 全体写真撮影してEND

\*文学系、法学系、経済学系、教育学系、社会学系、理学系、工学系、農学系、医学系、薬学系、生命科学系

H30年度総長裁量経費事業 主催：京大国際融合教育研究推進センター 協力：産官学連携本部 共催：国際高等研究所、サントリー文化財団